

3

教育・研究の特色

Education, Research

琉球大学医学部は、わが国で最も新しい国立大学医学部として昭和54年に設置されました。その13年前に医学部の前身である保健学部が設置されております。現在では、医学部に医学科と保健学科が、大学院には医学研究科(修士課程、博士課程)、保健学研究科(博士前期課程・博士後期課程)が設置されています。また、平成22年度から大学院医学研究科が大学院講座化され、医学科教員は大学院教員になりました。今後、令和7年の移転に合わせて、国際性・離島の特性を踏まえた沖縄健康医療拠点形成を目指しています。具体的には、高度医療・研究機能の拡充、地域医療水準の向上、国際研究交流、医療人材育成を行います。

教育においては、高い倫理観を備えた質の高い医療人の教育・養成を目指し、医学、保健学、医療技術学に関する普遍的な教育を実施しています。島嶼県沖縄の地域医療を充実させるため、平成21年度から沖縄県と協力して沖縄県出身の学生を地域枠として医学科に受け入れ、離島地域病院実習を含む地域医療教育に力を入れています。一方、国際医療の場でリーダーシップを発揮できる医療人材を養成するために海外での臨床実習を導入しています。その結果もあり、平成30年に日本医学教育評価機構(JACME)から評価基準に適合との認定を受けました。さらに、大学院研究科では沖縄の地域特性に根ざした医学・医療の課題を解決する研究者、指導者を養成するための教育・研究を進めています。

研究面では、がん、脳疾患、循環器疾患などの先進的な研究に加え、わが国で唯一の亜熱帯気候下に位置する島嶼県という沖縄の地域特性に根ざした特色ある研究に力を入れています。具体的には、熱帯・亜熱帯環境下での感染症研究、長寿県沖縄の復興を目指す長寿医学、急速な生活習慣の変化にともなう代謝疾患、生活習慣病の予防、狭い婚姻圏に由来する遺伝性疾患、琉球列島の成り立ちと関連した人類遺伝学、東南アジア地域での国際保健などの領域で活発な基礎的・臨床的研究を進めています。

さらに、平成27年度は、沖縄県の再生医療中核拠点としての再生医療研究センターを新設し、再生・発生分野の研究を進め、平成28年度には、先端医学研究センターを設置しました。

診療面では、琉球大学病院は沖縄県で唯一の特定機能病院であり、エイズ診療拠点病院、がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院などの指定、骨髄移植センターの設置により感染症やがん、心臓・循環器疾患、肝疾患、肝移植や骨髄移植などの高度医療を担うとともに、離島医療を含む地域医療の充実にも寄与しています。また、卒後臨床研修病院としてRyuMICプログラムを推進しており、他の病院群では出来ない臨床研修プログラムを提供しています。特に県や医師会などと協力して、オール沖縄の観点から「おきなわクリニカルシミュレーションセンター」を平成24年3月に開設しました。同センターは、多彩なシミュレーターや医療機器を保有しているため、基礎から生涯教育まで、レベルに応じた教育・研修ができ、県内の医療人や医療系学生が活用しています。また、平成24年度にFIMACC(機能画像診断センター)を開設し、平成26年度には災害医療と救急医療の機能を兼ね備えた救急災害医療棟を新設し、平成30年度に地域災害拠点病院に指定されています。さらに、平成26年度に沖縄県の施策として、医師の地域偏在を解消することを目的に「沖縄県地域医療支援センター」が開設され、医学生や医師のキャリア形成支援や、医師不足病院等への支援を行っています。

社会貢献として、地域住民の健康維持・福祉の充実に多大な貢献をしていることはもちろん、沖縄の生物資源を健康に応用する研究などを通じて地域産業の育成にも積極的に関わっています。また、医学部独自の高大接続授業を進めています。国際交流としては、学部および大学院学生を海外の大学に派遣、AMED等の支援によるアフリカ等での医療協力、台北医学大学等との研究交流を進めています。



教育における特色

医学教育(医学教育企画室)

医学教育企画室は、質の高い医療人の育成および沖縄県の医療水準向上のために、学生指導や臨床実習の企画・実施など医学教育全般に係る業務を遂行しています。室長(併任)の他、専任教員2名と事務職員4名に加えて、15名程度の企画室員(併任)によって構成されています。臨床実習以外に、医療現場におけるコミュニケーション能力や初歩的診察能力の修得を目的として、医学科と保健学科合同でのシミュレーション演習を1年次に開講しています。加えて将来のキャリア・パスについて考える医学概論、チーム基盤型学習(TBL)形式でのチュートリアル学習、患者・家族と直接に接触する各種実習[外来患者付添い実習、体験学習(療養型施設・沖縄愛楽

園訪問見学実習)、離島地域病院実習、離島診療所及び海外の大学病院での参加型臨床実習]も担当しています。また学務課と協力して、医学科4年次対象の共用試験(CBT・OSCE)、医学科6年次対象の臨床実習後OSCE(Post-CC OSCE)の実施にも関わっています。日々医学部生と向き合い、学習支援・修学相談等も行い、本学が国際基準に適合した医学教育を提供できるように努めています。



[写真:シミュレーション演習風景(一次救命処置)]

長寿県沖縄の島嶼地域医療人材養成(保健学科)

保健学科は国際的視点をもつ地域貢献の人材育成、また沖縄の地域を理解した国際貢献できる人材育成というグローバルな人材育成を行っています。看護師、保健師、助産師、養護教諭を養成する看護コースと臨床検査技師、健康食品管理士を養成する検査技術コースからなります。離島を含めた僻地保健医療、高齢化社会、特有の風土病対策、子供の貧困と母子保健、増加する観光客と移住による外国人といった沖縄県の抱える様々な健康課題を理解し対応できる人材を育成しています。学生は経験豊かな教員陣から広範囲な知識を得る一方、早い時期から地域医療機関での実習を行うことで、高い実践力を養い、地域に根付いた医療が出来るよう実力を蓄えていきます。講義と琉球大学病院の実習だけでなく、地域

の病院や保健関係施設での研修を積極的にカリキュラムに導入し、地域貢献の視点をやしなっています。さらに貧困問題・高齢化社会・地球温暖化など同様な課題を書けた東南アジアや太平洋島嶼地域の国々との交流を経て、異文化理解やグローバルな視点から地域問題を考えていく力を養います。



公衆衛生看護実習
公民館で学生の健康教育

アジア・太平洋地域との学術交流(保健学研究科)

保健学研究科は、人間健康開発学と国際島嶼保健学の2領域で構成されており、沖縄県の社会文化的環境および亜熱帯性自然環境を基盤とした健康・長寿の維持増進および再生に資する研究や、健康資源の解明に関する研究、アジア・太平洋地域の島嶼・僻地・地域保健の課題とその対策に関する研究などのユニークなテーマに取り組んでいます。この2つの領域は互いに融合し、亜熱帯性自然環境を基盤とした研究から得られた成果は、アジア・太平洋・アフリカ諸国での保健医療の増進に寄与するだけでなく、沖縄における異文化理解の力をもった保健医療者としての人材の育成にも貢献しています。

また英語コースによる特別プログラム:Okinawa Global Health Science Programをもつことから、フィリピン、ラオ

ス、インドネシア、中国から多数の留学生を受け入れてきています。この受け入れにはアジア・太平洋諸国の多数の研究機関と交流協定を締結し、共同研究を推進するなかで実現しています。留学生だけでなく日本人大学院生の積極的参加をはかることによって相互学習の環境が整っています。保健学研究科修士生は、各国省庁、大学、開発機関などで施策に携わるなど、グローバルヘルスの分野で活躍しています。



医学研究科・保健学研究科

医学研究科は、医学・医療のダイナミックな変化や社会のニーズに対応できる自己改新力と生涯持続力を身につけた人材を育成することを目的としています。博士課程では、健康長寿や新興感染症などの沖縄の地域に根ざした問題、ES細胞・iPS細胞の確立により近年著しく進歩している再生・発生分野の研究等、研究プロジェクトに対応したコースワーク・リサーチワークを編成しています。修士課程でも、この新しい教育課程を取り入れ、博士課程と連携した体系的な教育プログラムを提供しています。

保健学研究科は、1986年に国立大学2番目の保健学専攻の大学院として設置された伝統ある研究科で、数多くの優れた人材を輩出して沖縄県の公衆衛生の向上、保健医療の発展のために多大な貢献をしてきました。2007年に博士課程を設置し、現在の保健学研究科保健学専攻博士前期課程・博士後期課程となりました。本研究科は、心身ともに豊かな健康・長寿に資する高度な研究能力を有する保健学分野の研究者および指導者を養成することを目指しています。修了生の多くは県内の保健医療機関、行政のリーダー、教育に携わる大学教員として活躍していますが、県外の研究機関や国際的な保健活動に活躍する人材も輩出しています。

臨床教育(琉球大学病院)

琉球大学病院では「病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、地域・社会に貢献する優れた医療人を育成する。」という理念に基づき、「高い人間性」を持ち患者本位の質の高い医療を提供できる医療人の養成、「高い専門性」「や」豊富な知識」に基づく総合力を発揮し先進医療の開発・推進を担う人材の養成に努めています。

沖縄県の医療者育成は全国でも非常に高い評価を受けており、附属病院はその中で中心的な役割を果たしています。医師では、医学部学生には医学教育企画室を中心に臨床実習やクリニカルクラークシップが実践されており、初期研修医に対しては琉球大学病院臨床研修センターによるRyuMIC初期臨床研修プログラムの運営、そして琉球大学病院キャリア形成支援センターは専門医を目指す専門専攻医への琉球大学病院

専門研修プログラムの運用のみならずFD企画や復職支援がなされています。琉球大学病院では、地域医療に配慮した多彩な研修プログラムに加え、熟意ある指導者のもと屋根瓦式の教育体制がとられています。また、大学内に設置された全国有数のシミュレーションセンターを用いた研修も教育の質の向上に寄与しています。同時に、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、リハビリセラピスト、ME技師など、多くの医療職種への教育・研修(琉球大学病院キャリア形成支援センターがサポート)も計画的に実施し、より質の高い医療をチーム医療で実践していけるように努めています。これからの教育は、人材育成だけに留まらず、地域医療の充実、臨床研究の推進、さらに「医療の安全のさらなる向上」に大きく寄与しています。

シミュレーション教育 おきなわクリニカルシミュレーションセンター

おきなわクリニカルシミュレーションセンターは、沖縄県の寄付により平成24年3月に琉球大学医学部構内に開設された医療シミュレーション教育施設です。模擬環境を活用することで、医療現場での実践前に手技に習熟する、突発事態への対応とチームワークを予め練習しておくといったトレーニングを通じて、沖縄県内の医療水準の向上に貢献しています。特に医療安全の確保は病院の最も重要な役割のひとつであり、注力しているところです。

本学の医学部学生の実技演習に加え、当施設の事業として沖縄県内の研修医向けの教育企画シリーズ、シミュレーション教育指導者向けのセミナー、県内小中高校生向けの医療者体験イベントなどを開催しています。また、県内の医療教育機関および医療機関に幅広くご利用いただいています。

開設から8年を経て、年間およそ延べ1万5~8千人の利用があり、当施設でシミュレーション教育の技能を習得した指導者が県内全域で活躍しています。今後さらに多くの方々に活用していただけるように改善を進めたいと思います。

各種情報については<http://okinawa-clinical-sim.org/>をご参照ください。

